

五つの実際 その五

「こころの友伝道奉仕者の育成」



日本キリスト教団
赤羽教会(東京)

おおとも ひでき
牧師 **大友 英樹**

今回、この執筆にあたって『手引き』を読み返してあらためて気づいたことは、この箇所には箴言3章1～13節の御言葉が挙げられているということです。ずいぶん長い箇所が挙げられていますが、おそらくポイントとなるのは5～6節ではないかと思えます。

《心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼るな。どのような道を歩むときも主を知れ。主はあなたの道筋をまっすぐにしてください。》。「自分の分別には頼るな」とあります。

自分の意志、意見、計画、行動などは否定されるものではありません。それをういて主の福音を伝道することは結構なことです。しかし「こころの友伝道」のことを考えますと、そういう伝道方策ではありません。自分の分別による個人伝道ではなくて、チームワーク伝道であるからです。

こころの友伝道がチームワーク伝道であるとは、三つの基本Ⅱ「牧師と信徒の祈りと協力によるチームワーク伝道」とあるとおりです。そのようなチームワーク伝道は、スポーツにチームプレーが必要であることにたとえられるでありましょう。そこで大切なことは、そのチームワークを育てることです。

『こころの友伝道の手引き』では、「毎月一回教会でこころの友伝道奉仕者会を開きます。そこではまず、奉仕者自身の養いのために、こころの友伝道奉仕者の基本と実際の原則を学んだり、『こころの友伝道』紙を共に

読んだりします」とあります。

① このこころの友伝道奉仕者会のポイントは、牧師と信徒が集まり、共に養われるということです。聖日礼拝後に定例会が開催されるケースが多いと思いますので、礼拝での御言葉の恵みに養われてからの開催となりますが、平日の場合には、牧師が聖書を読み、短くてもメッセージを語り、御言葉に養われることが求められます。それはこころの友伝道の奉仕者は、新来会者・求道者という霊的な求めをもつ魂に接し、導いていくことが求められるからです。

② そうした霊的な養いとともに、実際的なこころの友伝道に仕える力を養うことも必要です。それはこころの友伝道とは何か、どのような伝道なのか、どのように行うのかというようなことを繰り返し学ぶことです。そのために『こころの友伝道の手引き』や「こころの友伝道」紙を講読し、伝道実証や現地実証などを通して各教会での試みを教えられることで、様々な気づきを与えられます。

③ そしてなんととっても、各地区での「こころの友伝道講習会」や「全国大会」に参加して、同じ志をもち、祈りをもつ各教会のこころの友伝道奉仕者との交わりはかけがえない養いになります。ぜひそうした「講習会」や「全国大会」でこころの友伝道のために献身するときを与えられたいものです。

コロナ禍で共に集まって奉仕者自身の養いを行うことが難しい時期もあったかと思いますが、もう一度立ち上がって、新来会者・求道者を洗礼へと導く栄光にあずかりましょう。

